



三井倉庫ロジスティクス



2025 年 9 月 29 日
三井倉庫ロジスティクス株式会社
株式会社 T2

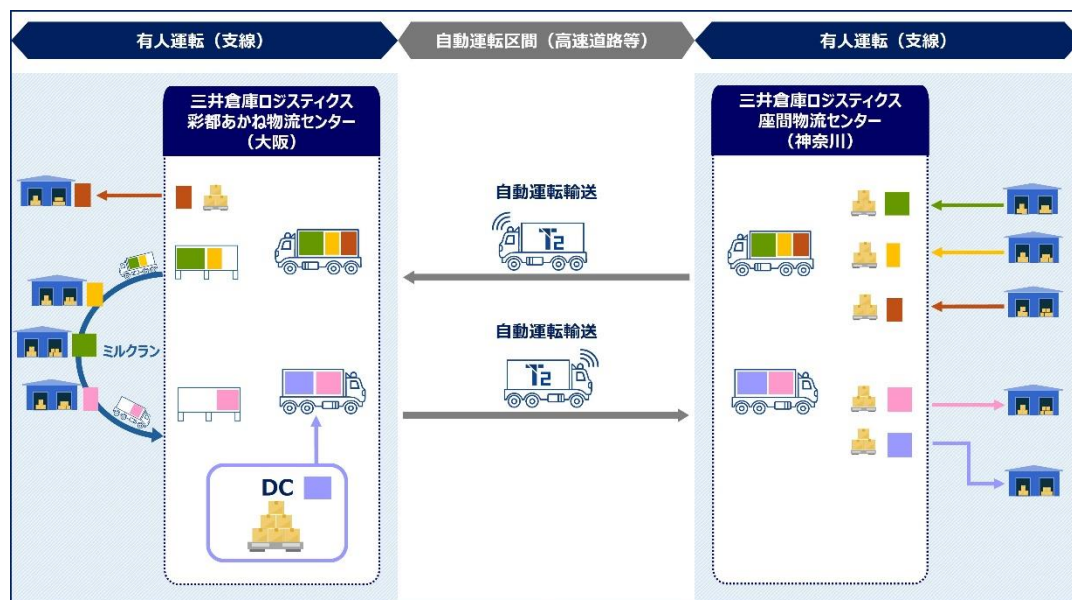
**国内初 三井倉庫ロジスティクスと T2、「クロスドック」と「自動運転トラック」を組み合わせた
混載輸送の実証を開始**

三井倉庫ロジスティクス株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役 社長執行役員：石川輝雄、以下「三井倉庫ロジスティクス」）および株式会社 T2（本社：東京都千代田区、代表取締役 CEO：熊部 雅友、以下「T2」）は、T2 が実現を目指すレベル 4*1自動運転トラックによる幹線輸送*2を見据え、物流拠点に集まる複数の荷主の貨物を在庫として保管せず、拠点内でそのまま仕分けて出荷する「クロスドック」の仕組みと、「自動運転トラック」を組み合わせた混載輸送の共同実証を 2025 年 9 月 29 日より国内で初めて開始します。



物流の「2024 年問題」などを背景にトラックドライバー不足が深刻化する中、三井倉庫ロジスティクスは、2023 年より T2 に資本参画し、複数の実証実験などを通じて連携を深めてきました。また、2025 年 7 月に T2 が開始したレベル 2 *3自動運転トラックの商用運行*4にもユーザーとしていち早く参加するなど、両社は、T2 が 2027 年に実現を目指すレベル 4 自動運転トラックによる幹線輸送を見据えて、次世代に向けた持続可能なオペレーションの構築を進めてきました。

さらなる効率的なオペレーションの構築には、自動運転トラックの稼働率と積載率を最大限高めることが重要であり、今般、三井倉庫ロジスティクスが「GWC 構想^{*5}」で活用している「クロスドック」の仕組みと、T2 の「自動運転トラック」を組み合わせ、複数の荷主の貨物を混載輸送する実証実験を共同で開始します。



クロスドックと自動運転トラックを組み合わせた混載輸送のスキーム（イメージ）

この実証では、三井倉庫ロジスティクスの「座間物流センター」（神奈川県）と「彩都あかね物流センター」（大阪府）の2拠点それぞれに集めた荷主5社（以下、実証概要を参照）の貨物を仕分けし、T2 のレベル 2 自動運転トラックに混載して両拠点間を幹線輸送します。その上で 2 拠点内にクロスドックの機能を設け、自動運転トラックが神奈川から大阪に到着後、次の貨物をすぐに積み込んで出発できるようにすることで自動運転トラックの稼働率を高め、混載を可能とすることで積載率を向上できるかを確認します。

さらに、在庫保管機能を備えた DC（ディストリビューションセンター）でもある「彩都あかね物流センター」では、保管在庫も混載貨物として積み込み、積み合わせ貨物調整の容易性や物流拠点のオペレーションと自動運転トラックの発着スケジュールの連携を検証します。また、スワップボディ^{*6}を活用することで、一部の貨物については、1 台の車両で複数の配送元を巡回する「ミルクラン方式」を採用し、自動運転区間と荷主拠点の発着地の間を一貫輸送できるかも確かめます。

このように、T2 の自動運転トラックと、三井倉庫ロジスティクスが通常の物流オペレーションで活用する複数の手法を組み合わせた実証実験を行うことで、より効率的な集配送オペレーションや自動運転トラックの発着スケジュールの連携を図り、T2 が目指すレベル 4 自動運転トラックによる幹線輸送でこの輸送方法を導入できるよう、改善点を抽出します。

【実証概要】

時期	2025 年 9 月 29 日～10 月 1 日
場所	往路：座間物流センター（神奈川県）⇒彩都あかね物流センター（大阪府） 復路：彩都あかね物流センター（大阪府）⇒座間物流センター（神奈川県） 上記拠点を結ぶ高速道路一部区間および荷主各社の倉庫との間で実施
役割	三井倉庫ロジスティクス：物流センターでのクロスドックオペレーション業務と荷主貨物の集配送業務の構築および混載の調整（計画化） T2：実証用車両提供および上記区間の運行 協力荷主企業 5 社：貨物の提供
荷主企業および積載貨物	・パナソニック オペレーショナルエクセレンス株式会社、パナソニック AP 空調・冷設機器株式会社：業務用冷凍・冷蔵庫など ・株式会社ネイチャーラボ：ヘアケア・ボディーケア商品など ・ダイキン工業株式会社：家庭用エアコン ・株式会社ドトールコーヒー：コーヒー豆および店舗で使用する消費材 ・エレコム株式会社：IT 関連製品など
検証項目	・クロスドックと自動運転トラックを組み合わせた混載輸送の運用フローやオペレーションの確認 ・上記輸送の有効性（特に効率化）と実現可能性の確認

*1 特定の走行環境条件を満たす限定された領域において、自動運行装置が運転操作の全部を代替する状態

（参照：<https://www.mlit.go.jp/common/001226541.pdf>）

*2 工場で生産された商品を全国の配送拠点に主要な輸送ネットワークを通じて効率的に運ぶこと

*3 ドライバーの監視のもとに行われる特定条件下での高機能自動運転

*4 本件に関するリリース：<https://t2.auto/news/2025/0701.pdf>

*5 GWC 構想：複数の GWC（ゲートウェイセンター）と呼ぶ主要な物流センターを中心に、デジタル技術を駆使した輸配送ネットワークで各センターをつなぎ、物流全体を効率化する構想

*6 特殊な荷役機器を必要とせずに、エアサスペンションにより、車体と荷台を自力で分離することができるトラックのタイプ

【各社概要】

■三井倉庫ロジスティクス株式会社

本社所在地：東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号 MSH 日本橋箱崎ビル 6 階

代表者：代表取締役社長執行役員 石川 輝雄

設立日：1971 年 4 月 21 日

事業内容：サプライチェーンソリューション事業（3PL/4PL/LLP）、テクニカルロジスティクス事業（配送・設置・工事など）、家電量販物流事業、国内外一貫物流事業、コーヒーシステムズ事業、商品の輸出入及び販売事業

企業サイト：<https://www.mitsui-soko.com/company/group/msl/>

■株式会社 T2

本社所在地：東京都千代田区内幸町二丁目 2 番 3 号 日比谷国際ビル 1 階

代表者：代表取締役 CEO 熊部 雅友

設立日：2022 年 8 月 30 日

事業内容：自動運転システムの開発、レベル 4 自動運転トラックによる幹線輸送サービス事業、幹線輸送に付随した関連サービス事業、その他関連サービス事業

企業サイト：<https://t2.auto/>

【お問い合わせ先】

三井倉庫ロジスティクス 営業本部 営業推進部 scm_sales_div@mitsui-soko-lg.com

T2 広報 pr@t2.auto